

平成29年度学校評価(自己評価)について(報告)

長崎県立諫早東特別支援学校

1 保護者アンケートにおける評価及び改善策について

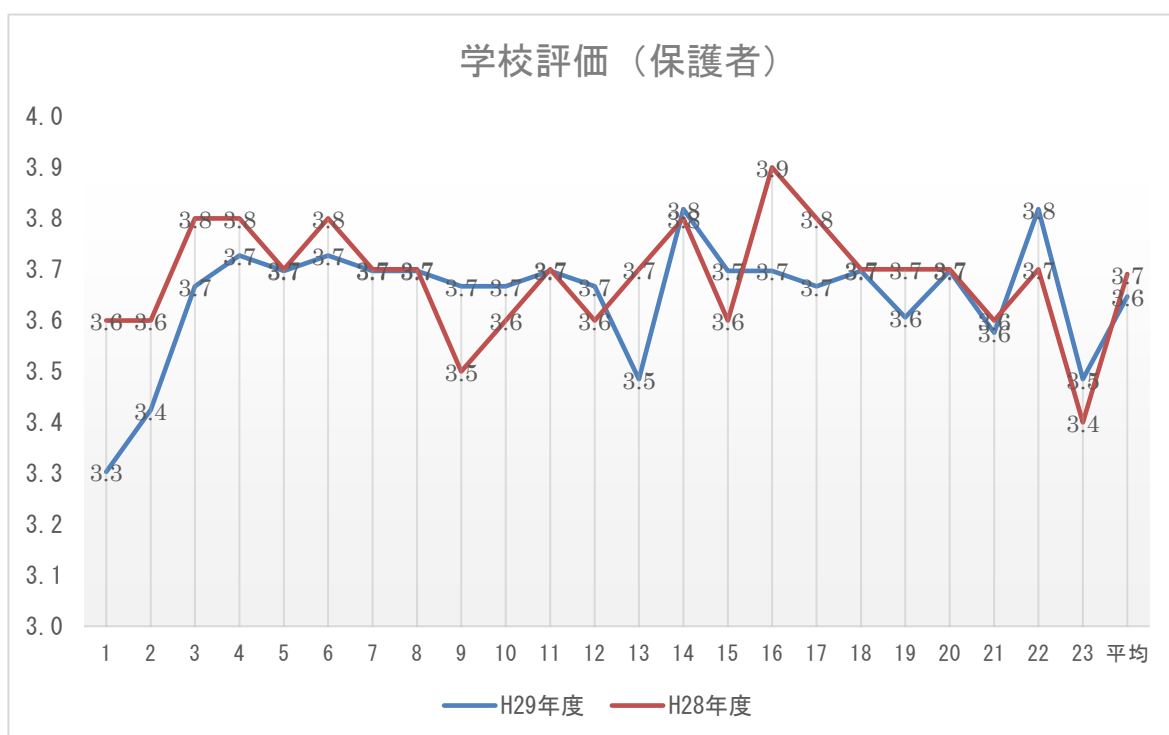
○全ての項目で「3.3」以上の高い評価を受けているが、平均は「3.6」で昨年度より0.1下回った。

○「3.8」が2項目あり1項目「⑭学校は、子どものことについて適切に相談に応じている。」については、各担任をはじめ関係職員が保護者の相談等に対し、その都度、アドバイスできている結果と思われる。2項目「㉓学校は、行事や授業参観など、保護者が来校しやすい機会を設けている。」については、様々な行事のほか、年3回の授業参観ウィーク(1週間)を設け、保護者が少しでも来校しやすい状況にしている結果と思われる。

○昨年度「育友会活動」の項目が「3.4」と一番低い評価であったが、今年度は「3.5」と0.1上回った。今年度は、育友会進路研修会のほか、初の試みで「お茶会」を開催したことも育友会活動として、良い結果につながったと思われる。今年度は、緊急時の連絡を取るために学校安心メールの登録の呼びかけを行った。その結果、学校安心メールの登録数が増え、学校や育友会の行事等のお知らせができたことも、良い結果の要因と考えられる。

●「3.3」と一番低かった「①子どもは学校に行くのが楽しいと言っている。」については、昨年度より0.3下回った。児童生徒の体調面から「朝の起床が定時にできない」「苦手な授業がある」等で登校できないこともあるが、保護者や子ども医療福祉センター(以降センターと記載)と連絡を取りながら、登校できる状況作りを行っているので、今後も継続していく。

●「3.4」と次に低かった「②子どもは学校行事や教育活動に意欲的に参加している。」については、昨年度より0.2下回った。今年度の行事を見る限り児童生徒達の行事への参加率はほぼ100%に近い。前日まで欠席しても当日は出席できたケースも多かった。今後も行事の精選、内容の充実を図りたいと考える。



2 児童生徒アンケートにおける評価及び改善策について

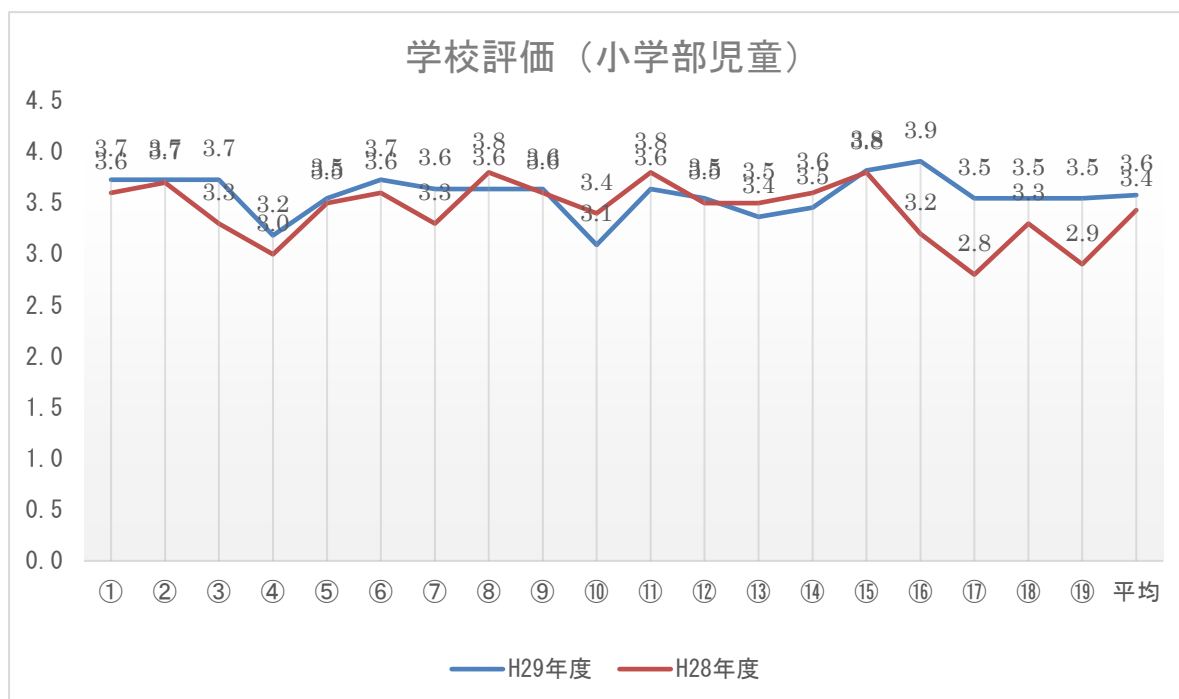
(1) 小学部

○全ての項目で「3.1」以上の高い評価を受けている。平均「3.6」で昨年度より0.2上回った。

○一番高い評価は「⑩学校の教室やトイレは、安全で使いやすい。」項目の「3.9」で、昨年度より0.7上回った。次に高い評価は「⑮教室や廊下は、いつもきれいに掃除されている。」項目の「3.8」で昨年度と同じ点数であった。児童生徒が行う清掃に加え、本校事務職員が毎日清掃を行っている結果と思われる。

●「3.1」と一番低かった「⑩手洗いやうがいをよくしている。」については、「ほけんだより」や「保健室前の掲示」、担任や養護教諭からの指導も行っているものの、自分で意識して行うことができていないことが窺える。今後も引き続き指導していきたい。

●「3.2」と次に低かった「④iPad やパソコンなどをたくさん使った授業がある。」については、児童生徒の評価は低かったものの、教職員の評価は「3.5」と相反する結果となった。授業を見る限りでは、職員の多くはICT機器を活用しながら授業を行っており、また、児童生徒自身がiPad を操作しながら授業を受けている状況である。1時間の授業の中で、必要な場面でiPad の使用は今後も継続していくと思われる。



(2) 中学部

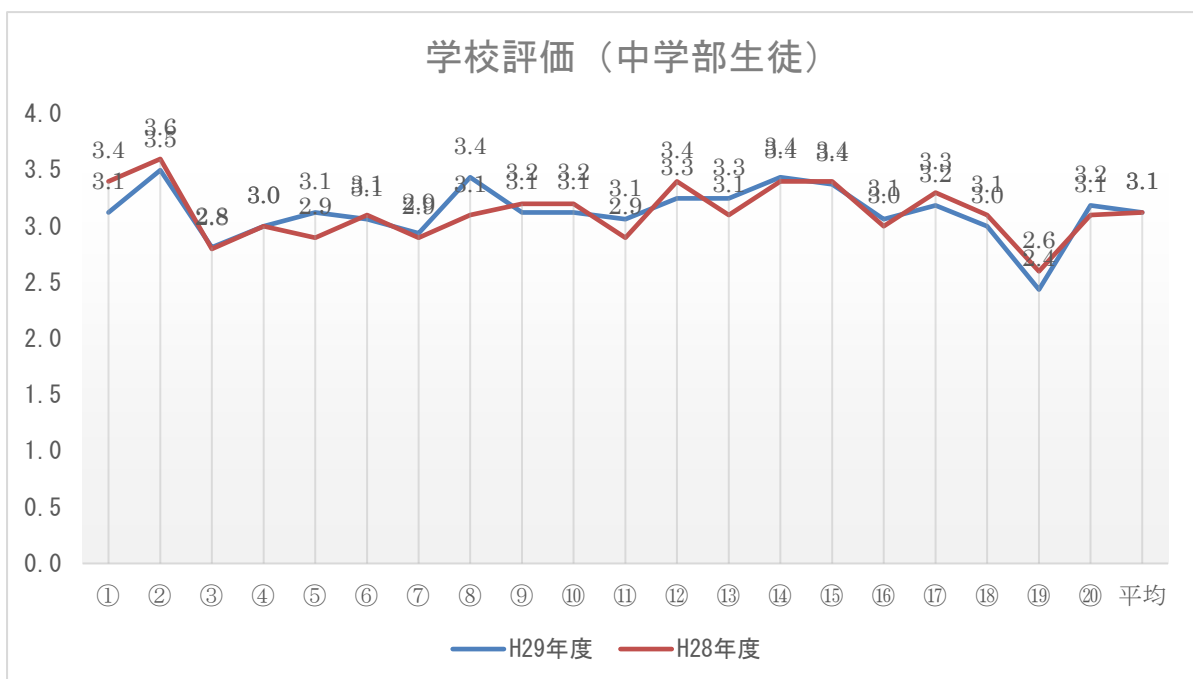
○昨年度と同じで平均「3.1」の評価であった。

○高得点であったのは「②学校は安心して勉強できる」で昨年度より0.1下回ったものの、「3.5」であった。昨年度同様に、センターに入院し、生活リズムが整ったことで、学校生活に対する不安が減り、「学習できていなかった」または「分からなかった」部分が理解できたことも高得点の結果と思われる。

○次に高得点であったのは「⑧先生や友だちと話をしている。」で昨年度より0.3上回った。教師への相談や友だちとの会話など、負担と感じずにできている結果と思われる。

●今回低得点であったのは「⑱図書室やどんぐり号をよく利用している。」で「2.4」と昨年度の最低点数を更に下回った。ただ、職員から見ると、休み時間や昼休みの時間を利用して生徒が図書室を利用している場面を見かけており、生徒がこの評価の捉え方を『本を借りたか借りなかったか』という観点で評価しているのではないかと思われる。次年度、質問項目を変更えて質問したいと考える。

●次に低得点であったのが「③家やセンターで宿題や勉強をよくしている。」が昨年度と変わりがなく「2.8」であった。「②学校は安心して勉強できる」評価と相反しており、家やセンターでは思うように学習できていないと思われる。学校以外の場で、自学する意識や習慣を身に付ける必要性を感じる。今後、更に指導していく。



3 職員アンケートにおける評価及び改善策について

○今年度は、昨年度と比べ50項目のうち41項目において、「0.1～0.9」上回った。中でも0.9も上昇したのは、「㉞2,3か月に一回程度、ホームページを更新し、教育活動や学校生活の情報発信に努めている。」の項目で、「3.8」と高い評価であった。50項目中5項目は昨年度と変わらない点数で、4項目が「0.1～0.2」下回った。平均は昨年度より0.2上回り、「3.3」であった。

〔教育活動〕

○「㉝各学部で一回以上の研究授業及び授業研究会、または事例研究会を行い、研鑽を深めている。」、「㉟日々の授業において、PDCAサイクルにより授業の改善を行っている。」、「㉡緊急時の対応マニュアルを全職員で共通理解し、緊急時を想定した訓練等を実施している。」の3項目において、0.4上回った。㉝㉞については、教務部、研究部を中心に計画的な研究への取り組みの結果と思われる。㉡については、保健体育部を中心に緊急時を想定した避難訓練の実施や、マニュアルの見直しや追加等が行われた結果と思われる。

●「㉟キャリア教育を意識した指導に努めている。」については、昨年度より0.3上回ったものの、「2.9」と低得点である。キャリア教育については、今後、学部会や課程部会等で話し合う機会を設け、教育課程と関連付けしていけるようにしたい。

〔組織運営〕

○「㉡重点努力目標を達成できる業務内容、業務分担が行われている。」は、昨年度より0.4上回っており、昨年度末に大幅に見直した分掌部の構成、業務内容で今年度一年間実施し、良い結果につながったと考えられる。

○「㉣職員は互いの気持ちを大切にし、意見交換、協力体制づくりに努めている。」は、昨年より0.5上回った。学部内、分掌部内等で建設的な意見を出し合いながら、よい体制作りにつながっていると思われる。

〔教育環境〕

○「㉢安全に配慮した環境作りのために、校内安全点検を毎月実施し、補修等を行っている。」は、昨年度より0.4上回った。月1回の安全点検を実施し、担当者が危険箇所の報告をその都度行い、保健体育部、事務室等で危険箇所の対応をしてもらったことで、児童生徒が安全・安心に学校生活を送れていると思われる。(児童生徒の評価も高かった。)

○「㉞2,3か月に一回程度、ホームページを更新し、教育活動や学校生活の情報発信に努めている。」は、前項にも挙げたとおり、0.9上回った。文化マルチメディア部が行事終了後に、HPIに行事をアップしたことで、情報発信ができた結果と思われる。

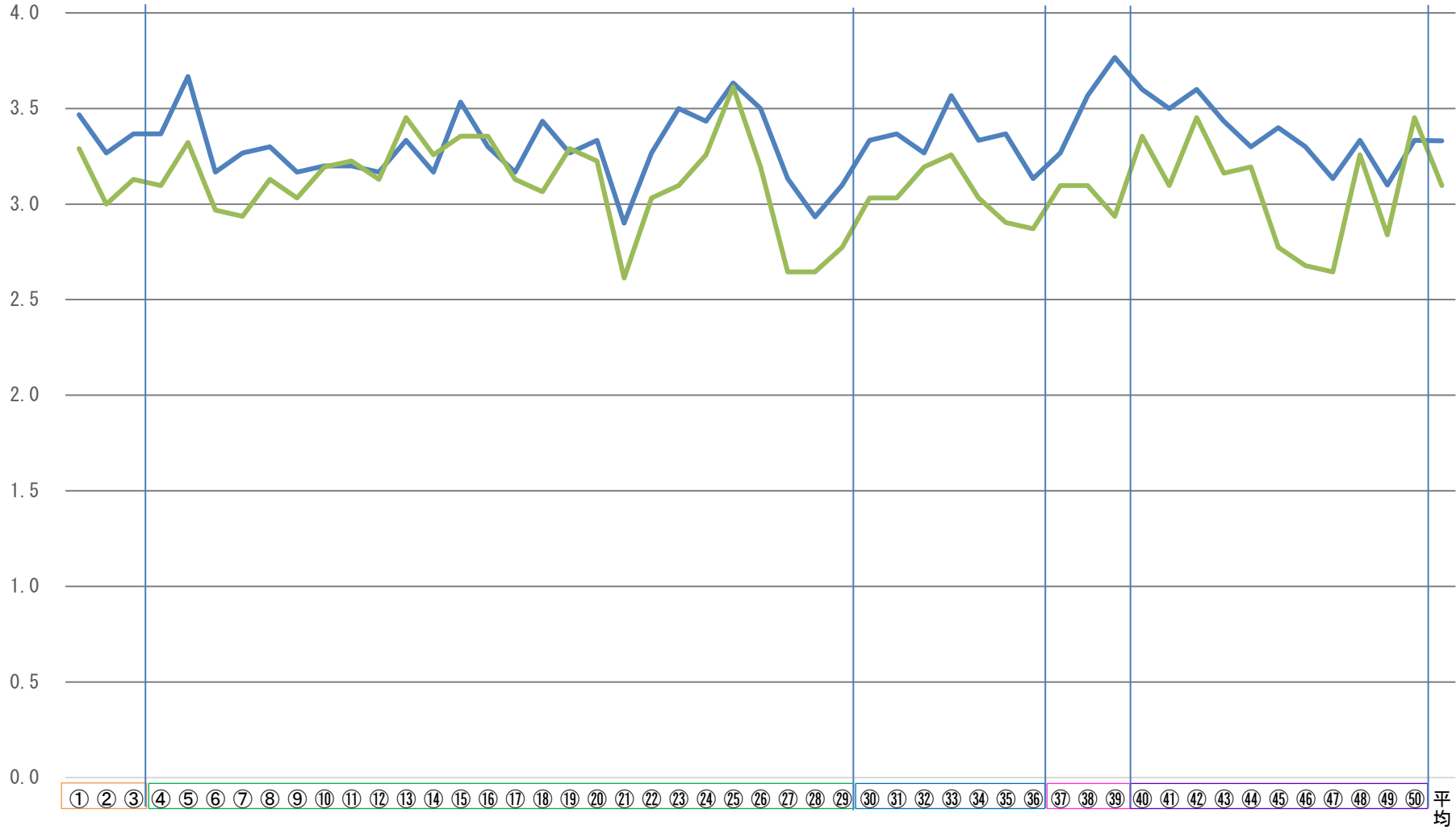
〔開かれた学校づくり〕

○「㉠保護者が「個別の教育支援計画」を支援ツールとして活用するために、「個別の教育支援計画」の作成及び活用の意図や目的の説明を行っている。」は、昨年度より0.4上回った。地域支援部が中心となり、年3回、五日間の面談ウィークを設定し、保護者が来校しやすい状況を作っている中で、保護者と学校の情報の共有ができています。また、児童生徒が利用する放課後サービスとも「個別の教育支援計画」を基にした話し合いができたところもあり、よい結果につながっている。

○「㉣センター学校連絡会、整形・小児科カンファレンス等により、必要な情報を共有し、一人ひとりのニーズに応じた教育を行っている」は、昨年度より0.5、「㉡連携シートを活用する等、自立活動における評価や課題を療法士と共有し、連携して指導している」は、昨年度より0.4上回った。特に今年度は自立活動部が、OTと連絡を取り合いながら学期に1回連携シートを活用しながら話し合いの場を設定したことはよい結果につながったと思われる。

学校評価（教職員）

H 2 9 H 2 8



学校経営

教育活動

組織運営

教育環境

開かれた学校づくり

平均

